

No. 60

2023年新春号



TICO

季刊ニュースレター

Newsletter

Face to Face



CONTENTS

1 目次

2 巻頭言

3 ザンビア心臓手術技術 移転事業協力に関する 覚書(MOU)締結

4 Facebook投稿より ザンビアでの心臓血管 外科手術技術移転事業

6 TICOの会員募集と ご寄付のお願い



2022年の総括と 2023年の展望

中村 哲郎

なかむら てつろう
特定非営利活動法人
TICO理事・調整員

明けましておめでとうございます。

理事の中村哲郎と申します。昨年のウクライナ避難民支援事業及びザンビアでの心臓血管外科技術移転事業に関わらせていただいた関係で、今回事務局より寄稿のお声がけを頂きました。大変僥越ではありますが、年初にあたり昨年のTICOの活動の振り返りと今年の展望を皆様と共有させていただきます。

昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻による避難民への支援事業より始まりました。岡山の特定非営利活動法人AMDAとの合同で、隣国ハンガリーに医療支援チームを派遣することになり、TICOより3名を3～4月に派遣し、国境地域にて避難民に対する支援活動を実施しました。さらに日本でのウクライナ避難民に対する医療面での支援要請を在日ウクライナ大使館より受け、無料健康相談サービスを4月より行なっています。1日も早く戦争が終結しウクライナに平和な日々が戻ってくることを祈る限りで、今年もニーズに合わせて、必要な活動が行えれば良いと考えています。

ザンビアへの心臓血管外科技術移転事業に関しましては、昨年はコロナ禍による活動中断を乗り越えて、新病院での活動再開という大変重要な転機となる1年でした。

2017年より開始された本事業は2020年までは年2～3回のペースでUTH (University Teaching Hospital, ザンビア大学教育病院) にて行ってきましたが、コロナ禍の広がりにより2020年2月の第7回目の活動を持って中断をしておりました。その間には、ザンビアの心臓病治療の中核となるNHH (National Heart Hospital, 国立心臓病院) がルサカ空港近くにオープンし、UTHの心臓関連の機能が新病院に移管され、スタッフも再編されるなど大きな変化がザンビア側にはありました。

コロナ禍が落ち着いてきたのを受けて、第8回目となる渡航(5名)を2年ぶりの昨年4～5月に、また第9回目となる渡航(9名)を8～9月に実施し、新病院のNHHにて現地スタッフに教育を行い計10名の患者さんの手術を行いました。また11月にはNHHとTICOの協力に関する覚書(MOU)の署名式を行いました。今後はこの覚書に基づき活動を継続していく予定で、今年はチームによる3回の渡航を計画しています。

さらにカンボジアでの救急医療支援事業も始動しました。9月に国際協力機構(JICA)と契約締結し、今後、救急医療指導者の派遣や研修員受け入れの事業を進めていくこととなります。

昨年は徳島新聞賞の大賞を6月に受賞、また米国のエドワーズライフサイエンス財団の助成も戴けるなど国内外で我々の活動についてご評価を頂きました。

これらの活動にあたりましては皆様から多くのご支援とご協力を頂きましたことを改めてお礼申し上げます。今後も内外を問わずに住民の方々の目線で活動ができればと考えております。継続的なご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



ザンビア心臓手術技術移転事業協力 に関する覚書(MOU)締結



左から水内大使、吉田代表、カソンカ次官、シュンバ院長

TICOがザンビアにて心臓手術技術移転事業活動を行うにあたり、NHHとは契約が無かったために、2022年11月10日にTICOとNHH (National Heart Hospital) の協力に関する覚書 (MOU) の署名式がザンビアの日本大使公邸で執り行われました。本覚書では、今後3年間で年間50例の心臓手術をザンビア人メンバーで行えるように各領域の専門家の育成を行うことを目的として、両者の役割や責任等を規定しています。

当日は、署名者として吉田代表とシュンバ院長、そしてザンビア保健省のカソンカ次官、日本大使館の水内大使にもご列席を賜り、署名とスピーチをいただきました。会場には20名以上の招待者と共に、多くのメディア関係者も詰めかけました。

席上、吉田代表からは1997年から始まったTICOのザンビアでの活動の経緯をお話し、本覚書に基づいてザンビア人専門家の育成を行い、「世界の医療格差は無くせる」と信じてザンビアの患者さんに貢献してゆきたい旨説明しました。

これに対して、カソンカ次官からは、TICOの過去からの活動について高く評価しており、今後、保健省としても全面的にサポートをしてゆくことを約束する旨お話がありました。

また水内大使からは、TICOが政府の支援を受けることなく自前で様々な分野の支援を行ってきたことを高く評価すると共に、心臓外科手術をザンビアのチームと一緒にいながら技術を伝えるという、文字通り手に手を携えての技術移転がこれから本格的にスタートすることに大きく期待するとのお言葉を頂戴しました。

ザンビアでの 心臓血管外科手術技術移転事業 9回目は3週間実施！

本年度2回目の医療チーム派遣



ザンビア国立心臓病院とTICOのプロジェクトメンバー全員で記念撮影！

本年2度目となるTICOチームによるザンビアでの「心臓血管外科手術技術移転事業」、第9回目となる今回は医師2名、臨床工学技士3名、看護師3名、調整員1名の計9名からなるチームにより、ザンビアの首都ルサカのNational Heart Hospital(NHH、国立心臓病院)にて2部構成で、医療機器メンテナンスに関する講習を1週間、引き続いて心臓血管外科手術技術移転を2週間、計3週間のプログラムを8月22日より行いました。

まず先行して3名が8月20日に日本を出発、現地時間8月21日午後に現地に到着し、8月22日より1週間、NHHの医療スタッフを対象に医療機器メンテナンスに関する講習をしました。

残りのメンバーは8月28日に現地に入り、9月9日までの2週間、6例の心臓血管外科手術をNHHの医師・看護師・医療スタッフと行い、技術移転と教育研修をしました。

〈派遣者〉＊敬称略、順不同

- 松村 武史(まつむら たけし)
医師/プロジェクトリーダー、さくら診療所院長

- 江川 善康(えがわ よしやす)
医師/さくら診療所勤務、元四国こどもとおとなの医療センター副院長、心臓血管外科
- 廣浦 学(ひろうら まなぶ)
臨床工学技士/帝京大学福岡医療技術学部医療技術学科臨床工学コース教授
- 山崎 康祥(やまさき やすのり)
臨床工学技士/藍野大学医療保健学部臨床学科准教授、元国立循環器病センター手術部 厚生労働技官
- 輪内 敬三(わうち けいぞう)
臨床工学技士/帝京大学福岡医療技術学部医療技術学科臨床工学コース 助教
- 山岡 綾子(やまおか あやこ)
看護師/兵庫医科大学病院 急性・重症患者看護専門看護師、元国立循環器病センターICU 厚生労働技官
- 色川 ゆかり(いろかわ ゆかり)
看護師・保健師/聖路加国際大学国際看護学特別講師、元慶應義塾大学病院ICU勤務
- 吉田 さくら(よしだ さくら)
看護師
- 中村 哲郎(なかむら てつろう)
TICO理事・調整員

医療機器メンテナンス研修

8月23日から、「医療機器のメンテナンスと安全管理の研修」を開始しました。この日の参加者は6名、うち5名は病院内の医療機器の保守管理を行う「バイオメディカルエンジニア(BME)」という専門職の皆さんです。まずは日本の臨床工学技士の先生方より、BMEの職務内容や日本での役割との差異、等について説明、さらに彼らの機器リストやメンテナンス管理方法を聞きました。

研修2日目。午前は管理ソフトを使用して、望ましい安全管理作業を皆でレビュー。午後は作業場所

等の現場視察で、どのように日々メンテナンス業務を行い、どのような悩みを持っているかを共有してもらい、アドバイスをを行いました。

機器の質に不安があり、十分にマニュアルや作業道具・分析機器も無い厳しい状況の中、彼らとして良くやっていると実感。共に現場に身を置くことで見えてきた課題に、一緒に挑戦していこうとの思いを新たにしました。



人工心肺装置研修

研修3日目(最終日)。

午前は座学で、心臓手術に必須の人工心肺装置の基礎について学び、その後に透析部門、病棟、機器室(X線、エコー)を視察。午後はオペ室で人工心肺装置の仕組みとメンテナンス方法についての実習でした。



万一の停電の場合に備えて、人工心肺装置を手動で駆動させることを全員が体験。実際、前回のプロジェクト時には30分の停電が発生したこともあり、皆本気モードで格闘。強烈な腕の疲労を感じながらも自分達の仕事の重要さを再認識する機会となりました。

ザンビアへの心臓手術技術移転

ザンビアへの心臓手術技術移転9回目となる今回は、6症例の心臓手術を行いました。執刀はザンビア人医師、それをTICOチームがサポートしました。手術の状況が確認できるように、今回、新たに手術台に取り付けたビデオカメラも大活躍！



術後3日。笑顔でリハビリ中！

今回は、ザンビア有力紙であるDaily Mailのトップページに、私たちの活動の写真が大きく掲載されました。写っている患者さんは第一例目の方です。病院側が開いた記者会見にメディアが来て、その際に撮った写真が掲載されたのです。2面には2つの記事も掲載され、この日までに5例の心臓手術を行った我々の活動も説明されています。ザンビアでの心臓手術に対する意識の高まりと私たちへの期待をひしひしと感じました。



最終日の午前中は主要メンバーが参加した総括会議。リーダーの松村医師より今回の振り返りを行い、総評を伝えました。

毎回の手術後にTICOチームで行ってきたのは、手術の振り返り。独自の評価フォームを用いて、手術時間、職種別に良かった点・課題点、そして10段階評価でのスコアを記入して、その後にザンビアチームにフィードバックを行っています。

心臓手術は多職種のチームワークが鍵。このフィードバックを毎回行い、各メンバーに気づきを与えることで格段にチーム力が向上してきました。次回までにどこまで改善が進むか楽しみです。



モノが無いなかで知恵を使って補修！

一つビッグサプライズがありました。透析部門を視察していた際に水処理機器の一部から水漏れが見つかり、我々で一時的な補修を行いました。その後、保守管理を行うメンバーがその箇所を丁寧に補修した様子を見せてくれたのです。モノが無いなかで、身近にあるペットボトルなどを組み合わせて知恵を使って補修しており、そのアイデアと器用さに私達が驚きました。「キミたち、やるねー！その調子！！」



レポート：中村哲郎調整員

● TICOの活動を応援してください！ ●

TICO 会員募集	会員となって資金面からTICOの活動をサポートして くださる方を募集しています。	ご寄付	皆さまからのご寄付は、支援活動・団体の 運営を継続するための大きな支えです。 ご支援をよろしくお願い申し上げます。
年会費	賛助会員 個人 12,000円 ※通常は賛助会員での 学生 6,000円 ご入会をお願いしてい 団体 15,000円 ます。総会での議決権 正会員 12,000円 を持つ正会員を希望 される方は事前にご連 絡ください。	銀行振込	銀行名 楽天銀行 支店名 第一営業支店(支店番号251) 口座種類 普通 口座番号 7657541 口座名義 特定非営利活動法人TICO ※カナ入力の場合は、(トクビ)テイコ
ご入会方法	ホームページから ①ご入会フォームにお名前等をご入力ください。 ②お支払い方法の選択:クレジットカード継続決済と ゆうちょ銀行自動引き落としのいずれかを選択し、 手続きに進んでください。 インターネットをご利用でない方 年会費を郵便局備え付けの郵便振替用紙で、次の 講座へお支払いください。 ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号を通信欄に お書き添えください。 口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO	郵便振替	口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO
		PayPay	090-8662-9737
		クレジットカード	ホームページをご覧ください。

※会員の方には、TICOのニュースレター「Face to Face」を
毎号お送りいたします。

特定非営利活動法人 TICO事務局 〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 120-4

電話 0883-42-2271(平日 9:00~17:00)
メール info@tico.or.jp
ホームページ www.tico.or.jp
フェイスブック www.facebook.com/ticohq

ブログ blog.goo.ne/tico.blog
Twitter @TICOjapan
Instagram www.instagram.com/ticojapan/



TICO

TICOニュースレター Face to Face 第60号

2023年2月発行 発行人: 吉田 修